

平成30(2018)年度

栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業

栃木県では、平成30(2018)年度にスポーツ庁の委託事業である「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」を受託し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運醸成を図ることや、スポーツへの興味や関心を高めるとともに、おもてなしの心や公共心・道徳心を涵養すること等を目的として、「栃木県オリンピック・パラリンピック教育推進事業」を実施しました。

本リーフレットは、オリンピック・パラリンピック教育の普及・充実に向けて、実践自治体の栃木市、那須塩原市、佐野市、実践校の日光明峰高等学校、小山南高等学校の実践事例や成果等を掲載しています。



◆◆◆ オリンピック・パラリンピック教育 ◆◆◆

オリンピック・パラリンピック教育とは、オリンピック・パラリンピックの理念について学ぶとともに、その価値を体験的に教えていこうとする教育的活動のことです。大別すると、「オリンピック・パラリンピックそのものについての学び」と、「オリンピック・パラリンピックを通じた学び」があります。

2020年の開催に向けて、児童生徒の興味・関心を高め、スポーツの価値や効果の再認識を通じ、国際的な視野をもって世界の平和に向けて貢献できる人材を育成することを目指しています。

平成31(2019)年2月

栃木県教育委員会

栃木市の取組

1 実践校

【小学校15校】

栃木中央小学校 栃木第四小学校 南小学校 吹上小学校 千塚小学校 寺尾小学校 国府南小学校 国府北小学校
大平東小学校 大平西小学校 大平中央小学校 藤岡小学校 三鴨小学校 赤津小学校 西方小学校

【中学校6校】

栃木東中学校 東陽中学校 大平中学校 大平南中学校 藤岡第一中学校 西方中学校

2 主な取組内容

● オリンピアン・パラリンピアンとの学校訪問

<訪問者（訪問日順）>

- ① 西山麗（ソフトボール）北京オリンピック
- ② 齋藤仁志（陸上）北京オリンピック
- ③ 齋藤春香（ソフトボール）北京・アテネ・シドニーオリンピック
- ④ 石川多映子（ソフトボール）シドニーオリンピック
- ⑤ 志賀良弘（ハンドボール）ロサンゼルスオリンピック
- ⑥ 山本隆弘（バレーボール）北京オリンピック
- ⑦ 増淵倫巳（車椅子バスケットボール）ロンドンパラリンピック
- ⑧ 神保康広（車椅子バスケットボール）アテネ・シドニー・アトランタ・バルセロナパラリンピック

<訪問内容>

- ☆ 講話及び児童生徒との交流活動

● 各教科・領域の年間指導計画への位置付け <実践例>

- ☆ 道徳科：夢や希望をもって、挫折や苦難を乗り越えたオリンピック・パラリンピアンに関する授業を行った。
- ☆ 保健体育科：体育理論においてオリンピック・パラリンピックの果たす役割について学んだ。
- ☆ 学級活動：オリンピック・パラリンピックを題材に多様な他者との人間関係づくりについて学んだ。
- ☆ 児童会活動：「〇〇小オリンピック」を児童会主催で実施した。

● その他

- ☆ オリンピック・パラリンピックフラッグツアーでのイベント参加
- ☆ ハンガリー近代五種ナショナルチームの千塚小学校訪問

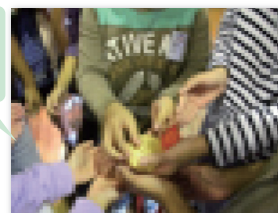


[車椅子バスケットボールの様子]



[バレーボールの交流会の様子]

本物の金メダルに触らせてもらいました！



[社会の授業の様子]



[ハンガリー選手団との交流会]

3 成果

- ・ オリンピック・パラリンピック教育の実践から、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への興味・関心が高まった。
- ・ オリンピアン・パラリンピアンとの交流を通して、夢や希望をもち、日々努力することの大切さや、挫折しても前向きに取り組む根気強さを学ぶことができた。
- ・ オリンピアン・パラリンピアンとの交流体験後、主体的に活動する児童生徒が見られた。

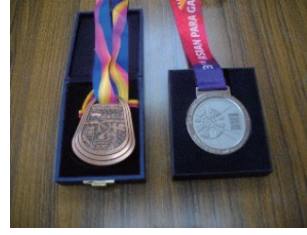
4 課題

- ・ オリンピアン・パラリンピアンからの講話という一方での交流にならないように、学習のねらいを明確にした上で活動することが必要である。
- ・ 事前事後の学習と他教科・領域等を関連付けて、計画的に実施することが重要である。
- ・ 「オリンピック・パラリンピックそのものを学ぶ」学習は、比較的多くの学校で実施していた。より積極的に「オリンピック・パラリンピックで学ぶ」学習に取り組むよう働きかけをしたい。

那須塩原市の取組

1 実践校

黒磯北中学校	埼玉小学校
厚崎中学校	三島小学校
西那須野中学校	南小学校
箒根中学校	西小学校
塩原小中学校	大山小学校
推進指定校を希望した全ての学校指定	合計 10校



2 主な取組内容

● オーストリア選手団との交流会

☆ 5月28日(月) 大原間小学校
大原間小学校に姉妹都市のオーストリアのトライアスロン選手6名が訪問



[歓迎会及び対面セレモニーの様子]

● オリンピアン・パラリンピアンを派遣した交流会

☆ 11月2日(金) 厚崎中学校・埼玉小学校
義足の走高跳選手 パラリンピアン 鈴木 徹 選手
☆ 11月28日(水) 塩原小中学校
11月29日(木) 黒磯北中学校
400mH オリンピアン 杉町 マハウ選手
☆ 11月29日(木) 大山小学校
栃木ゴールデンブレース
野崎 新矢 選手 前田 大佳 選手
☆ 11月30日(金) 三島小学校
栃木ゴールデンブレース
金本 享祐 選手 八木 健史選手
☆ 12月5日(水) 西那須野中学校
12月6日(木) 箒根中学校
車椅子テニス選手 パラリンピアン 眞田 卓 選手
☆ 12月17日(月) 南小学校・西小学校
元陸上選手 オリンピアン 弘山 晴美 選手



[交流会の様子]

● オリンピック・パラリンピック教育の充実に向けた各学校での実践活動

本市は、全ての学校が「よい、ドン!スクール」の認定を受けており、各学校で実践を行っている。

- ☆ 福祉教育の一環とした「車椅子バスケの体験」
- ☆ 保健体育科・体育科の授業における活動
- ☆ 市のマラソン大会にオリ・パラブースを設け情報発信
- ☆ 児童会主催のミニオリンピック体験集会活動
- ☆ 体育委員会を中心とした、オリ・パラの広報活動
- ☆ 道徳の授業

● オリンピック・パラリンピック教育推進のための体制整備

☆ 11月6日(火)「東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致に係る庁内ワーキンググループ会議」

- ・ 庁内関係各課の係長が出席
- ・ 「那須塩原市オリンピック・パラリンピック推進事業」についての説明と協力の依頼

3 成果

- ・ 平成29年度から、本市の全ての学校が「よい、ドン!スクール」の認定を受け、各学校でオリンピック・パラリンピック教育を推進してきた。更なるオリンピック・パラリンピック教育の推進を行うため、平成30年度に推進指定校を10校指定し、学校のみならず地域を巻き込んで関心を高めることができた。
- ・ 「スポーツの価値を理解するとともに、本市の姉妹都市であるオーストリアをはじめとする諸外国に関心をもち、多様性を理解し、将来、国際社会で主体的・積極的に自己を発揮できる人材の育成」を目指している本市の学校教育の取組を充実・拡充する絶好の機会となった。
- ・ オリンピアン・パラリンピアンとの交流事業では、「残すべき3つのレガシー」について、選手の体験談やエピソードを通して理解することができ、児童生徒の心を動かす機会となった。
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、児童生徒が主体的に参画し、学校としての意識も高まり、様々な取組が見られるようになった。
- ・ ワーキンググループで関係各課で共通理解を図ったことにより、市の広報に交流会の様子を取り上げるなど、市民への啓発にもつながった。

4 課題

- ・ オリンピアン・パラリンピアンとの交流会については、各学校では講師の選定が困難な状況であった。そのため、選定が難しい学校については、市教委が講師の選定交渉を行った。講師リスト等があると良かった。事業スタートが7月、事業終了が2月のため、講師の選定や各学校の事業計画作成では限られたものになってしまった。
- ・ 新たな体制の整備を考えていたが、すでにオリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致に係る庁内ワーキンググループが設置されていたため、検討の結果、新たな組織を作らず既存の組織を活用することとなった。本会議が11月であったため、公民館における事業の実施はできなかった。

佐野市の取組

1 実践校

本市は市内全小中学校（35校）で各校の実態に応じたオリンピック・パラリンピック教育を推進している。
市教育委員会が研究推進校として4校を指定した。

【研究推進校】

田沼小学校 山形小学校 田沼東中学校 田沼西中学校

2 主な取組内容

● パラスポーツ選手・プロスポーツ選手との交流会の開催

- ☆ 車椅子バスケットボールTOCHIGIレイカーズの増淵倫巳選手（ロンドンパラリンピック出場）等との交流会
10月11日（木） 田沼東中学校
11月28日（水） 山形小学校、田沼小学校
- ☆ 東京2020の正式種目である3×3バスケットボールのプロチーム BREX.EXEの齊藤洋介選手等との交流会
12月3日（月） 田沼西中学校



【3×3バスケットボールの様子】



【車椅子バスケットボールの様子】

● オリンピック・パラリンピックに係る研究授業

- ☆ オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を喚起したり、その意義を学んだりするために、総合的な学習の時間や「特別の教科 道徳」で指導案を作成し、研究授業を実施した。

◆ 市内各小中学校での実践

● パラリンピックに帯同したスポーツトレーナーの方の講演会の開催

- ☆ 10月9日（火）、市内教職員（希望者）を対象に講演会を開催し、パラリンピアンへの障害に合わせたトレーニングや食事、体のケアのことなどについて学んだ。



【授業研究の様子】

● パラリンピックスポーツ「ボッチャ」の用具の購入と活用

- ☆ 「ボッチャ」の用具を購入し、各小・中学校での活用を図った。



【ボッチャ体験の様子】



【講演会の様子】

● 調べ学習用の書籍の購入と活用

- ☆ 「オリンピック・パラリンピックまるごと大百科」を全小・中学校に配布し、調べ学習等での活用を図った。

3 成果

- ・ 交流会を通して、児童生徒のオリンピック・パラリンピックに対する興味・関心が高まった。
- ・ パラリンピアンやプロスポーツ選手の講話、インタビューを通して、努力することの大切さや困難なこと、大変なことがあっても目標を見付け、諦めないことの大切さ等を学ぶことができた。
- ・ 「ボッチャ」の用具の活用が積極的に図られ、体験を通してパラリンピックスポーツへの理解や興味・関心が高まった。

4 課題

【研究推進校】

- ・ 児童生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心の高まりを継続させていくための取組や手立ての工夫が必要である。

【市教育委員会】

- ・ オリンピアン・パラリンピアンとの交流会の開催要望等に応えるための支援体制の整備が必要である。